

第2期山北町総合戦略（令和2年度～令和6年度）

山北町まち・ひと・しごと創生推進会議（外部有識者）による評価・意見

総合戦略先駆的事業

1 観光資源活用事業

- 洒水の滝については、観光客誘致に多大な貢献をすると予想され、工事の年度内の完成に期待する。コロナ後を見据え、テレビやSNS等を活用したPRが必要となる。
- SUPについては、民間企業に任せるだけでなく町として受付場所、更衣室、飲食店等をダムと合わせた整備を考えていかないと今の規模を脱することは難しい。
- コロナ禍による観光事業への影響は大きく、数値だけで評価すべきではない。

2 地域公共交通網の形成事業

- 公共交通網の整備は優先度の高い課題であり、対応の遅れは人口減少を加速させる恐れがある。現状の課題解決だけでなく周辺地域を含めた公共交通の将来像を見据え、計画と段階的な対応を急ぐ必要がある。
- 交通の利便性は地域活性化に重要なので、周辺自治体等との連携を引き続き進めていただきたい。

3 SDGs推進事業

- 木質バイオマスボイラーやマイクロ水力発電の導入を目標としているが、その効果が費用に見合うかどうかを設置時と10年稼働後で定量化して説明する必要があると考える。
- 町の資源でもある「水」に特化した再生可能エネルギーの研究を進めていただきたい。
- 自然豊かな当地においてSDGsの推進は身近なものになり得るものであり、現状の取り組みと合わせて、さらなる拡がりに期待している。

4 D52奇跡の復活事業（第2期）

- 観光資源としても重要なものであることから、施策の確実な実行と合わせて民間の活用等、新たな拡がりに期待したい。
- 操縦できるD52の整備は鉄道ファンにとって魅力的だと思うので計画どおりに進捗することを期待する。有効なPRについても戦略が必要。
- 25mの線路延伸が外部対して効果的なアピールとなるのか疑問である。

自由意見

- 町民の方々が先駆的事業に関してどれだけ理解・認識をされているかが現段階では見えていないように感じる。
自治会への回覧等により事業を町民に対してのアピールし、様々な意見を取り入れるなど、まちぐるみで推進を図ることにより、一層事業が充実するのではないか。

基本目標1 山北町における安定した雇用を創出する

- コロナ禍で厳しい状況の中で、山北ブランド認定品が増えているのは喜ばしい。新ブランド（ニンニク等）の栽培促進や雇用の創出について継続的に展開してもらいたい。
- 1次産業だけでなく、2次3次産業を含めた6次産業も視野に入れての雇用創出や企業誘致など土地の有効活用も併せて取り組んでもらいたい。
- 農業の担い手の発掘については、農業希望者へ研修等具体的な情報発信をすべき。
- 静岡県小山町における製造業者の積極誘致策は山北町に影響が大きく、既存事業者の流出懸念にもつながるものであることから、企業誘致に関する補助の拡充や既存企業の課題やニーズを十分に吸い上げたうえで解消に資する策を講じる必要があると考える。

基本目標2 山北町への新しいひとの流れを作る

- コロナ禍で都市部の企業に在宅勤務が広がり、地方への住居移転が進んでいる。町の魅力を効果的に発信できれば、移住先や観光地として関心を持つ人が増えるのではないかな。
- 豊かな自然環境が県内外より評価され始めており、転入者が伸びていることも注目点である。「コロナ禍の後」を見据えた環境作りに協力していきたい。
- 居住に関しては、交通インフラが少なく、何をするにも車がないと厳しいのが現状である。東山北駅にコインパーキングを作るなど、御殿場線の利便性が向上すれば居住者の増加につながるのではないかな。
- 「東山北 1000 まちづくり基本計画」に対する町内の期待は大きく、確実な実行とさらなる発展を期待する。

基本目標3 山北町の若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える

- コロナ禍によって公共施設の利用者人数の減少やイベント等が中止となったことは仕方なく、数値で評価すべきではない。一方で、このような時こそ、子育て環境の満足度評価（利用者の声）を集め、子育て世帯の要望に少しでも応えるべきではないかな。
- 山北町の子育て環境はともすれば「孤育て」ともなりかねない都市部に比べ、とても魅力的に感じる。
- 出産や子育て、医療費の補助等、経済的負担を他の地域より軽減することによる若い世代の定着を検討してはどうか。
- 御殿場線の利便性が向上すれば、山北町に残る若い世代は増えるのではないかな。

基本目標4 時代にあった山北町らしい地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する。

- 地域のつながりが少なくなると治安の悪化や防災体制の弱体化につながる。各自治会の集会施設にネット会議の環境を備え、防災出前講座や座談会の遠隔開催などを検討できないか。
- 地域において、地元で長く住む高齢者の方々と若い世代の転入者が共に暮らしていくことを思うと町として難しいところも多々あると思うが、「山北らしさ」は人と人とのつながりであると考えており、その視点を踏まえたまちづくりを期待する。
- コロナ禍の影響により現状の実績は厳しいものとなっているが、感染状況に留意したうえで、今後の施策の確実な実行について期待したい。

自由意見

- 本来であれば対象年度ごとに目標値を設定し、目標値に対する達成度合いで評価すべきと考える。令和6年度の目標はそのままでもよいとしても、各年度の目標設定と、活動内容の報告方法については、再検討すべきではないか。
- 県内外の他地域における総合戦略の成功例等を共有、活用し充実した推進を願う。
- 新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により、急速に進化する時代に早急に対応すべく、専門家を迎えデジタル基盤を整備し、自然豊かな山北町に若い人たちが生活の場として定着するようになることを期待している。
- 山北町の人々はとてもあたたかく、自然も豊かでとても良いところである。ただし、訪れる機会がなければその魅力は分からない。まだ山北町を知らない方が、山北町に来てみたいと思えるような魅力やアピール方法を一緒に考えていきたい。
- 利便性を理由に近隣市町への転居や介護施設への入居希望を耳にする機会は多く、買い物や通院等の補助や支援策について拡充が必要と考える。